# 令和７年度全国学力・学習状況調査における

# 北九州市立　　折尾西　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１８日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## １．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

| 教科に関する調査（国語、算数、理科） |
| --- |
| ①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等<br>②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問調査

| 児童質問調査 |
| --- |
| ○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

## ３．教科に関する調査結果の概要

### ⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | | 理科 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 8.9 | 64 | 8.6 | 54 | 9.1 | 53 |
| 全国 | 9.4 | 67 | 9.3 | 58 | 9.7 | 57 |

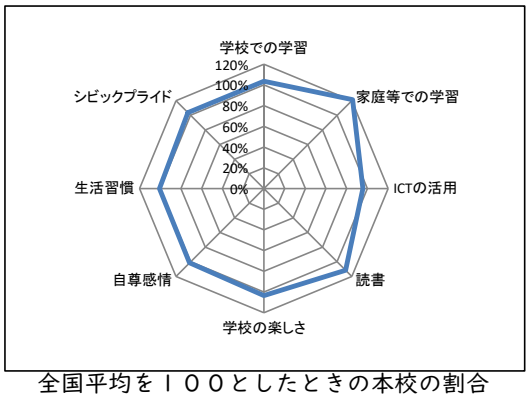
### ⑵　本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|---|---|---|---|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | ○学習指導要領の内容「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」における全ての区分で全国平均を上回っている。<br>○質問紙調査で、解答時間について「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合も全国平均を上回っており、国語科に関する基礎学力向上がうかがえる。 | 全国平均正答率との比較<br>上回っている |
| | よくできた問題 | ◎「事実と感想、意見などとの関係について、叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて用紙を把握することができるかどうかをみる問題」では、正答率が全国平均を大きく上回った。 | |
| | 努力が必要な問題 | ●「登場人物が手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由を考える問題」だけが、全国平均をわずかに下回った。図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することには、課題が見られる。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | ○「数と計算」「図形」領域の正答率は全国平均を上回っている。一方で、「測定」「変化と関係」「データの活用」については、全国平均をやや下回った。<br>○無解答率が全国平均を上回っており、問題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢の定着が課題といえる。 | 全国平均正答率との比較<br>同程度である |
| | よくできた問題 | ◎「棒グラフから項目間の関係を読み取る問題」「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題」において、正答率が全国平均を大きく上回った。 | |
| | 努力が必要な問題 | ●「数直線上に示された数を分数で書く問題」では、全国平均との開きが大きい。数直線上で１の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることに、課題が見られる。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | ○４領域中、「粒子」のみが全国平均を上回っている。「エネルギー」「地球」は全国平均とわずかな差しかないが、「生命」は全国平均との開きが大きい。<br>○選択式の問題においては正答率が全国平均を上回っているが、短答式の問題においては正答率が全国平均を下回った。知識・技能の定着が課題といえる。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | ◎「温度によって水の状態が変化するという知識をもとに、水の結露について概念的に理解しているかどうかをみる問題」において、正答率が全国平均を大きく上回った。 | |
| | 努力が必要な問題 | ●「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識」や「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能」に関する問題など、「生命」を柱とする領域において、全国平均との開きが大きい。 | |

## ４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要




全国平均を１００としたときの本校の割合

**質問調査の結果分析**

◎「読書は好きですか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」における肯定的回答が、全国平均を大きく上回っている。音読や読書に関する取組の充実、辞書を用いた意味調べの推進を日常的に進めてきたことの成果と考えられる。
◎平日・休日とも、家庭等で１日あたりに１時間以上学習する児童の割合は、全国平均を上回った。学習習慣定着に向けた学校の働きかけに対する、保護者の共感や支援が大きい。また、学校の授業時間以外にICT機器を勉強のために使う児童の割合が全国平均より高いことから、タブレットや学習アプリの活用等、学習手段の多様化がうかがえる。
●「朝食を毎日食べていますか」の肯定的回答が、全国平均を下回っている。また、「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」において、「そうしている」と回答した児童の割合も全国平均を下回った。生活習慣の改善が課題といえる。

## ５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ①　教科に関する取組

○国語科における学びの質をより高められるよう、教科横断的な課題学習（環境問題の調査や報告など）や、タブレットやクラウドツールを使った協働学習を可能な限り進める。
○算数科において、グラフや表を使って数量の変化を視覚化する活動や、具体物の長さや重さなどを実際に測定する活動を積極的に取り入れ、学習内容と実生活との結び付きを強められるようにする。
○理科では生物分野に対する理解が課題であるため、観察などの実体験を通じた学びの充実、模型や動画の積極的活用による概念獲得の支援、学習内容を言葉で説明・記述することによる言語活動の充実を通して、探究的な学習を一層推進する。

### ②　家庭生活習慣等に関する取組

○手本になる自学ノートを紹介したり、おすすめの学習テーマを複数示したりして、児童が家庭学習への意欲をさらに高められるようにする。
○ICT機器の活用に関心を示す児童が多い一方で、学習以外の用途で活用する時間が長くなり、生活習慣が乱れたり、友人関係に悪影響を及ぼしてしまうケースもある。情報リテラシーに関する指導を随時行い、活用上のルールとその遵守を児童が主体的に考えられるようにする。
○保健の学習や学級活動の時間を通して、自分の生活リズムについて考え直す機会を設定したり、学校通信等で保護者へ協力を要請したりして、児童が生活習慣を改善できるようにする。